

GALERIE ASHIYA SCHULE

岩名泰岳－宮永 亮

Lamellar

会期：2015年6月20日(土)－7月19日(日)

Yasutake Iwana Akira Miyanaga

Lamellar

June 20－July 19, 2015

ギャラリーあしやシューレでは6月20日(土)より、岩名泰岳－宮永亮による「Lamellar」展を開催いたします。

岩名泰岳は2012年までドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミーで研究生として学び、2013年に帰国後、地元・伊賀上野島ヶ原で制作を続けています。村民芸術を提唱する「蜜の木」活動を実践するとともに、絵画という媒体での創造探求を続けています。

作者は、地元の村にある観音山と呼ばれるお寺の裏山や、野に咲く草花のスケッチをもとに、村の記憶から掘り起こしたイメージを描き、作品化しています。キャンバスの表面あるいは目に見えない下層部には、自らの詩やテキストが描き込まれ、それら融合されたイメージの群は、濃密なエネルギーを獲得しながら、作家自身の作品へと統合されています。

宮永 亮は、ビデオカメラで撮影された映像をもとに、数多くの素材を収集し、スーパーインポーズする手法で作品を制作しています。自然あるいは人間の営みを実写した映像は、断片の歪みや重なりを伴いながら合成されていきます。それらの入り組んだレイヤー構造は、人間の意識にズレを感受させ、新たな識閾の知覚へと向かわせます。物語性から解放されたビデオアートが、時間芸術という抽象表現へ拡張されています。

本展では、岩名泰岳〈土〉－宮永 亮〈水〉作品が、異なる物質が層状に重なり合うごとく『Lamellar』に集約され、未だ見ぬ世界と、新たな方向性を期待する展覧会となります。

初夏から梅雨を経て、盛夏に向かうこの季節。複層的に立ち表れる『Lamellar』の世界を、どうぞお楽しみください。

ギャラリートーク

岩名泰岳×宮永 亮

2015年6月20日(土) 16:00-17:30

GALERIE ASHIYA SCHULE

兵庫県芦屋市親王塚町 3-11 〒659-0016

12:00-19:00

水・木休廊

岩名泰岳



「観音山」油彩、キャンバス、2015



「十一」油彩、キャンバス、2015



「観音山」油彩、キャンバス、2015



「ケモノチ」油彩、キャンバス、2015



「郷」油彩、キャンバス、2015

宮永 亮



Traffics 2014 シングルチャンネル 21 分 FHD ビデオ、音声



WAVY 2014 シングルチャンネル 10 分 10 秒 FHD ビデオ、音声



scales 2011 シングルチャンネル・ビデオ・インストール映像：9 分 38 秒ループ、スクリーンサイズ：780x1820mm デジタルビデオ（1920x360 ピクセル）、音声、スクリーン 協力：児玉画廊 撮影：表恒匡



地の灯について 2010 マルチチャンネルビデオ・インストール映像、サイズ可変 FHD ビデオ（8チャンネル）、音声、プロジェクター8台 スピーカー2台、車1台、ビデオカメラ1台、木材類、銅管類、ケーブル類 協力：児玉画廊 撮影：表恒匡

岩名泰岳

Lamellar

昨春、僕のアトリエで宮永亮さんとの対談を企画させていただいた。村の人たちの前で2時間ほどお互いの芸術について語り合った。

残念ながら僕のアトリエには電気が通っていない。「次は一緒に作品の展示ができたなら」ということでその対談は終わったが、今回その願いが実現する形となった。本展のタイトルの『Lamellar(ラメラ)』とは、人体における水と脂質によって形成されるサンドイッチ状の層構造を示す言葉である(ラメラ構造)。

宮永さんの【映像】に映し出されるものは水や光の半透明な層(レイヤー)であり、僕の【絵画】に塗り重ねられたものは土や血の厚い層(マテリアル)である。

〈水と土〉〈映像と絵画〉の層はどのような空間を生むのか。またこれらのイメージの層の蓄積は、同時に作家の思考やオルタナティブというもうひとつの層を浮上させる。

僕は故郷で「蜜ノ木」という村の思想のようなことをやっているが、宮永さんは京都で「GURA」というスタジオ兼スペースの運営をされていた。

【都市と自然】【現在と過去】【グローバルとローカル】

2人の層が交錯し、蓄積されていく先に浮かび上がってくるのは、やはり(日本)という問題なのか。

宮永 亮

Lamellar

ドイツ留学を経つても、現在は伊賀の島ヶ原という故郷において村民芸術「蜜ノ木」を主宰し、その風土に立脚した岩名君の絵画作品群。対する僕は、主に国内の様々な場所に赴き、自分の手で撮影された動画素材を元に、常に日本という場についての思考が念頭にありつつも、何処でもあり何処でもないような風景を合成してきた。

【内と外】【絵画と動画】【住民と旅人】など、彼と自分を比較するに想起されるのはこのような2項対立的なキーワードだが、この事自体が、それらが語られるフィールドを共有していることも意味する。【場】【平面】【社会的態度】など。お互いの作品に含まれる共通項としてよく語られるのは、『自然』という(現代美術で扱うには時にキツチュに過ぎる)表現だが、この言葉で全てを纏めてしまう事は、悪癖、思考停止と言えなくもない。少なくとも上記のような様々な概念に分節、再考され、この時代において今一度吟味されるべき大きなテーマであるはずなのだ。幸いにも、彼も僕も、作品の中に層構造を持っている。2人の作品を一つの空間に置く事で、それぞれの作品内の一層一層が意味のレイヤーとして自立し出し、彼我の別なく再積層され、『自然』を分析、思考する場がこのギャラリーの中に現出させる事が出来ないだろうか。

岩名泰岳 Yasutake Iwana

1987 三重県生まれ

2010 成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス卒業

2010-2012 ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミー研究生

2013 島ヶ原村民芸術「蜜の木」結成

現在 三重県伊賀市在住

□主な個展

2015「観音山」MA2 ギャラリー、東京

「観音山」Mizuho Oshiro ギャラリー、鹿児島

2014「土の骨・星の花」SENSART ギャラリー、三重

2013「田ノ獣／森ノ花」ギャラリーあしやシューレ、兵庫

2012「Universum」reinraum e.V、デュッセルドルフ、ドイツ

2009「蜜の木と森の道」ギャラリーDen 58、大阪

2007「岩名泰岳展」CASO、大阪

「岩名泰岳展」ギャラリーDen、大阪

□主なグループ展

2015「三重の新世代 2015」三重県立美術館、三重

2014「蜜ノ木-祭の後の異人たち-」旧アトリエ河口、三重

「奈良・町家の芸術祭はならあと」工場跡、奈良

「地の糧 -その誘惑-」2kw ギャラリー、大阪

2013「KISS THE HEART #2」伊勢丹新宿、東京

「郵便夫と森の星」旧アトリエ河口、三重

「worldmaking ”100年前の空”より」2kw ギャラリー、大阪

2012「Back from Japan」HPZ-Stiftung、デュッセルドルフ、ドイツ

「私の場所 私たちの風景」MA2 ギャラリー、東京

「2つの森 Zwei Wälder」ギャラリーDen mym、京都

2011「Visual Sensation vol.4」ギャラリーDen mym、京都

「Kunstpunkte 2011」Kunst im Hafen e.V、デュッセルドルフ、ドイツ

「奈良・町家の芸術祭 HANARART」ならまち各所、奈良

2010「Artist Night Vol.01」0000 ギャラリー、京都

「ART FAIR FREE」VACANT、東京

「アートアワードトーキョー丸の内 2010」行幸地下ギャラリー、東京

「SCHAULAGER 2010」CON-SUM、デュッセルドルフ、ドイツ

□主な受賞

アートアワードトーキョー丸の内 2010 準グランプリ

宮永 亮 Akira Miyanaga

1985 年北海道生まれ、京都市在住。

京都市立芸術大学大学院修了。平成 23 年京都市芸術文化特別奨励者。

ビデオカメラでとらえられた実写映像素材のレイヤーを、幾重にも渉りスーパーインポーズする手法を用いて作品制作を行っている。それはモンタージュの様に素材の順時的羅列によるストーリーの提示ではなく、時間軸に対し、レイヤー構造という異なる方向を持つ軸をビデオアートに持ち込むことで、新たに合成されるナラティブの枝を作品内に現出させようとするのであり、そして時間芸術の中での非時間性への模索でもある。主に現代美術の領域で、ビデオ作品、ビデオ・インスタレーション、スチル作品等の発表を行っている。

□主な個展

2015「see saw」児玉画廊(京都)

2012「scales」児玉画廊(京都)

2011「成層圏 vol.5 風景の再起動—宮永亮」gallery α M(東京)

2010「making」児玉画廊(京都)

「地の灯について」児玉画廊(東京)

2009「G/P projection 01/ 映像展」G/P gallery(東京)

「Wondjina」児玉画廊(京都)

□主なグループ展

2014「EAST ASIAN VIDEO FRAMES: TOKYO」Pori Art Museum(ポリ、フィンランド)

「FLOW 水は何をつなぎ、何処へ行くのか」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都)

「アートライン 柏 2014『VISIONS2014~映像のリプレイ~』」柏駅南口/二番街商店街(千葉)

札幌国際芸術祭 2014「北海道のアーティストが表現する<都市と自然>—<時の座標軸>—」札幌大通地下ギャラリー—500m美術館(札幌)

「In the Still of the World」児玉画廊(京都)

「eg0—<主体>を問い直す—」punto(京都)

「MOT アニュアル 2014 フラグメント—未完のはじまり」東京都現代美術館(東京)

「再／生—映像が呼び覚ます第六感覚」水戸美術館(茨城)

2013「キラキラヒカル 第3回 蔵と現代美術」川越市内・蔵造りの町並み(埼玉)

「なつやすみの美術館 3<美術の時間>」和歌山県立近代美術館(和歌山)

「第5回恵比寿映像祭 パブリックダイアリー」東京都写真美術館(東京)

「KYOTO ARTISTS MEETING 2013」Antenna Media(京都)

2012「クラウド[cloud/crowd]~I'm here~」ギャラリーLE DECO 5F・6F(東京)

「隠喩としての宇宙」タカ・イシイギャラリー京都/ホテルアンテルーム京都

「2012 Move on Asia」Gallery loop(ソウル)

2011「ルネサンス—京都・映像・メディアアート」京都芸術センター/むろまちアートコート(京都)

「癡行者—宮津大輔:一位工薪族的當代藝術收藏展 Invisibleness is Visibleness: International Contemporary Art Collection of a Salaryman—Daisuke Miyatsu」台北當代藝術館 MOCA Taipei(台北)

2010「Move on Asia 2010」Gallery loop(ソウル)

「京芸 Transmit Program #1<きょう・せい>」@KCUA(京都)